

インターネットの教育利用の現状と将来

林 英輔

流通経済大学流通情報学部教授
柏インターネットユニオン理事

1. はじめに

本報告の内容

- ◆ わが国におけるインターネットの教育利用の経過
- ◆ インターネットシステムの機能と特徴
- ◆ 到達段階としての現状
- ◆ さまざまな課題
- ◆ 終わりに

2. わが国におけるインターネットの教育利用の経過

- わが国におけるインターネットの始まり
'80年代後半、'90年代前半、'90年代後半
- '94年度に行われた二カ所の実験
- 100校プロジェクト
'94年度の準備、'95,'96年度の展開、'97,'98年度の展開
- その他のプロジェクト
メデアキッズ、こねっとプラン、等
- 文部省の重点地域事業
- 文部省関係審議会の答申
中央教育審議会答申、生涯学習審議会答申、教育課程審議会答申

3. インターネットシステムの機能と特徴

- インターネットモデル
- ネットワークのネットワーク
- 自律・分散・協調システム
- 双方向性、高速性、マルチメディア通信、オープンシステム、シームレス性、先端技術との親和性
- 利用機能：電子メール、ファイル転送、WWW、等

4．現状の到達段階

- 学校にインターネットの利用環境ができ、先進的な教師による教育利用実験が行われた
- インターネットに接続できた学校は、全体の2割程度
- 多くの場合、1台のPC(サーバまたはクライアント)で接続、LAN型接続はこれから
- 接続する上位ネットはいろいろ、接続線は細い
- 極く限られた範囲では、実時間画像音声伝送による交流授業の実験も
- 情報交流は学校間がほとんど
- 語学教育では、直接的な教育利用が可能
- 総合科目的な利用、課外活動的利用が多く、特定科目内利用は少ない
- 生徒は興味を持って臨むが、利用環境の不備は飽きをまねく
- 豊富な教材 調べ学習 自主的な学習
- 遠方の人と交流 刺激と緊張 主体的な思考と表現力の養成
社会性の経験、国際性の体験
- 実時間画像音声伝送による交流授業 教室に活気をもたらす

5．さまざまな課題

- インターネットの教育利用は、実験段階から通常利用の段階へ
- インターネット教育利用そのものの課題
 - インターネット利用を授業教育の中に取り入れる方法
 - インターネット利用に必要な知識や態度を、他の教科内容との関連で
 - インターネット教育利用を担当できる人材の養成と確保
- 個人情報保護
- 有害情報の排除
- システムやデータの保護
- 教育ネットワークの構築、運用・管理、障害対策
- 利用方法、利用・管理技術の研修
- インターネット教育利用の指導、管理者の研修 校長先生の役割
- 学校と家庭
- 学校と地域

6．終わりに

- ネットワークの展開では、人々の信頼関係が大切
- 研究会活動が必要
 - ネットワークを介した連携とオフライン会合の双方が大事
- ネットワーク展開での、ボトムアップ展開とトップダウン展開の整合
自主的な活動と行政の支援
- 学校全体の取り組みとして成功させることが重要